



I 目指す学校像

[本校の教育目標]

人間尊重の精神を基調とし、一人ひとりの個性の確立をめざし、それぞれの適性に応じて将来の路を決定し、新しい時代と社会に貢献できる有為な人材を育成するために、次の目標を掲げる。

- ① 基礎学力を充実して自ら求めて学ぶ学習習慣を身につけ、知性の開発を目指す。
- ② 豊かな情操を育て、真・善・美へのあこがれと実践力を身につけ、感動する素直な心を大切にする。
- ③ 健やかな心身を鍛え、困難にうちかつ体力と意志の力を身につけ、気力の充実を図る。

教育目標を達成するため、以下のような学校づくりを目指す。

～生徒が夢に 挑戦し 努力し 生涯を見通し 逞しく生きる力を培える～

夢 挑戦 努力 自己実現

地域に根ざし、社会に貢献できる人材を育成する学校

- (1) 学ぶことの喜びを感得し、学ぶ意欲を持ち続ける若者を育てる学校
- (2) 生徒一人ひとりの進路実現に向けて教職員が一致して取り組める学校
- (3) 家庭や地域と連携し、生徒の学校生活を支援し、生徒、保護者、都民に信頼され、選ばれる学校
- (4) 全日制普通科としての特色や地域の特性を活かし、様々な困難を克服し、チャレンジ精神を養う学校
- (5) 生涯を見据え、逞しく生きて行く能力を身に付けることの出来る学校

II 中期的目標と方策

～生徒の多様な能力に 多様な教育活動で 多様な進路を実現する～

平成 25 年度から実施の新しい学習指導要領に基づく教育課程の中で「スポーツ健康」・「福祉保育」・「メディア文化」の3つの学系科目群と大学進学を見据えた選択科目を活かし、生徒の意欲と学力を高め、一層の進路実績の向上に結実させる。

- (1) 多様な能力を持つ生徒の入学：様々な個性・能力を持つ生徒が入学し、個々の特性を伸ばす魅力ある学校をつくる。
 - ①入学選抜制度 [推薦 (一般、文化・スポーツ)・前期・後期] を検証し改善していく。
 - ②広報活動体制を充実させ、HP・体験入学・学校説明会・学校便り・中学校や塾訪問等、様々な機会を通して本校の教育方針・活動状況を保護者はじめ地域や中学校等に紹介していく。
- (2) 多様な教育活動の展開：3つの学系（「スポーツ健康」・「福祉保育」・「メディア文化」）選択、進学対応の選択科目と共に大学進学を見据えた選択科目、特色ある教育課程のもとに、生徒の希望や適性、能力を活かした魅力ある授業を実施する。
 - ①個に応じて基礎・基本となる学習能力を育て、併せて進学に十分対応できる学力を身につけさせる。
 - ・ICT 機器を活用した授業を展開し、生徒の興味・関心を引き出すとともに、授業力の向上を図る。
 - ・習熟度別授業、T.T や少人数等きめ細かな指導を工夫し、個に応じた能力の指導を行う。
 - ・家庭学習の定着を図るとともに、放課後や週休日、長期休業日中に補習や進学対応講習を実施する。
 - ・特別進学クラスを1学年より編成し、目的達成へ学校全体での組織的な指導を図る。
 - ②社会で求められる各種資格や技術習得を支援し、将来を豊かに、逞しく生きる基礎とする。
 - ・パソコン等 IT 関連資格講座、保育技術関係資格対応を充実させる。
 - ・検定等受験者に対して補習、実習、交流活動等を充実させる。

③部活動や学校行事の活性化を通して目標に向かって、挑戦し、継続的に努力する精神力と共に帰属意識や愛校心を育て、本校生徒としての自信と誇りを培う。

- ・部活動の活発化、質的向上に取り組み、活動成果を褒賞する。
- ・生徒のゆとりある居場所づくりを推進し、施設や環境整備を充実させる。

④きめ細かな生活指導やボランティア活動等の地域貢献を通して、生徒の健全な成長を促す。

- ・保護者（PTA）・地域と協力して、学校内外の美化等、奉仕体験活動を進めていく。
- ・生徒に規範意識を醸成し、エチケットやマナーを身につけさせる指導を推進する。

(3) 多様な進路の実現：難易度の高い大学への進学及び資格取得やスキルアップを目的とした専門学校等への進学、生徒の希望や能力・適性を踏まえた就職指導の充実を図る。

①各学年と進路指導部が連携して、キャリア教育の視点から進路分野別にきめ細かい指導を実施するとともに、生徒及び保護者に進路に関する適切な情報を提供し、生徒の進路実現を図る。

- ・3年間を見通した進路指導計画を作成し、進学指導体制を確立する。
- ・早い時期からの小論文や面接指導などを通して、進学に対する意識の啓発と実力の養成を図る。

②進路実現に係わる外部関係機関等との連携を図るとともに、全校での進路指導への取り組みを促進する。

- ・専門学校等（技能修得）及びハローワークや区行政（雇用促進）との連携体制を構築する。
- ・公務員受験対応講座を外部関係機関と連携し早期から開講させて意識の啓発と実力の養成を図る。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

令和3年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大防止に向けて、様々な教育活動が制限されることが予想される。社会情勢が激変する中で、生徒・教職員の健康維持に留意しながら、以下について取り組む。

1 教育活動の目標と方策

企画調整会議を核として、組織的、計画的に学校運営を図る中で、以下のことを重点目標として取り組む。

(1) 基礎学力の定着と応用力の向上を図るとともに、キャリア教育を推進し、個々の生徒の進路実現を図る。

①学力向上に組織的に取り組み、基礎学力の定着と応用力の向上を図る。

- ・国語、数学、英語で習熟度別授業、学系列の授業で少人数指導を実施し、基礎学力の定着や応用力の向上を図る。
- ・各教科で生徒の学力を分析・把握し、学力向上に組織的・計画的に取り組む。
- ・授業を中心としながら、宿題や週末課題、小テストを活用して生徒の家庭学習を促進し、学力向上を図る。
- ・ICT機器、動画教材、オンライン授業（Teamsを含む）を活用したり、体験的活動を取り入れるなど、生徒の興味や関心を高める工夫ある授業に取り組む。
- ・放課後や長期休業中に基礎学力の定着に向けた補習や進路別講習を行い、学習意欲や進路意識を高め、応用力や小論文作成力の向上を図る。
- ・朝学習を実施して授業に向かう姿勢や集中力を養うとともに、漢字・計算力・英単語テスト等を工夫し組織的、計画的に実施して学力向上を図る。
- ・特別進学クラス生徒を中心に、外部の補習システムを活用し、生徒が自ら学ぶ意欲の向上を図る。
- ・予備校主催の教員セミナー等への派遣を通して、教員の授業力の向上を図る。

②3つの学系科目群の特色を活かし、基礎学力の向上や専門的知識の獲得を図るとともに、各種資格取得や技術の習得を目指す。

- ・漢字検定、数学検定、実用英語技能検定、情報関連検定及び保育技術検定等を受験する生徒への支援をする。

③キャリア教育を組織的・計画的に行い、進路決定率の向上を図るとともに将来を見据えて逞しく生きていく力を育成する。

- ・3年間を見通した進路指導計画を作成し、各学年と進路指導部が連携して、キャリア教育の視点から進路分野別にきめ細かい指導を実施するとともに、組織的な進路指導体制を確立する。
- ・小論文指導や長期休業中の講習などを通して、高いレベルの進路実現を図る。

- ・保護者対象の進路指導説明会を実施し情報を提供する。また、三者面談を通して生徒の進路実現を図る。
 - ・専門学校等（技能習得）及びハローワークや区行政（雇用促進）等進路実現に係わる外部関係機関等と連携し、進路講演等を活用して、生徒の勤労観・職業観を啓発する取り組みを進める。
- ④前年度までに検討してきた新たな学習指導要領に基づいた新教育課程について、引き続き検討を重ねる。その際、学系の構成に関して中長期的な課題を確認しながら編成する。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
- ⑤探究活動を充実させるため、前年度に設置した「探求 PT」を継続し、組織的な指導を展開する。また、1学年はキャリア・パスポートを活用し、生徒自身が学びや活動を記録し蓄積することで、振り返りと自己評価を計画的に実施する。
- ⑥特進クラスの目的や目標について協議を行い、すべての学年が同じ価値観で特進クラス運営できるよう、あらたに「特進 PT」を設置する。
- (2) 生活指導や健康指導を充実させ、生徒の健全育成を推進する。
- ①教科指導や生活指導、教育相談活動などを通して早期に課題解決を図る。
- ・「授業を大切に」をスローガンに授業開始・終了時間の厳守に努め、授業規律を確立・維持する。また、欠席・遅刻をしない、させない学習環境をつくとともに、皆勤者等は積極的に称える。
 - ・拡大学年会を年間2回実施し、生徒の情報を全体で共有し、全員で指導する体制をつくる。
 - ・家庭との連携を密にした指導を迅速に行うとともに、スクールカウンセラーによる校内研修や関係機関等との連携を図り、教育相談機能を充実させることで、生徒の心の悩みに応え不登校、中途退学等を防止する。
 - ・特別支援教育コーディネーターを通じて中学校、特別支援学校等と連携した特別支援教育の推進を図る。
 - ・いじめ等の問題に適切な指導を展開できるよう、教育相談・いじめ対策委員会を中心に全校的な連携体制を構築する。
- ②社会生活のルールやマナー、エチケットを身につけさせ、基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・教科指導、HR指導、部活動指導等において一貫性のある全校指導体制を確立する。
 - ・あ（挨拶をする）じ（時間を守る）み（身だしなみを整える）そ（掃除をする）運動を展開する。
 - ・交通安全指導を通して、自転車の運転マナーを指導する。自転車保険加入を推奨する。自転車運転時のヘルメット着用が努力義務であることを周知していく。
- ③健全な生活習慣の確立を通して健康についての自己管理意識を高める。
- ・睡眠や食事などについて健康的な生活習慣が定着するよう、保護者と協力して取り組む。
 - ・美化委員会の活性化を図りながら、ごみの分別を徹底するなどの美化活動に取り組む。
 - ・新型コロナウイルスの感染防止に向けた指導や注意喚起を行う。
- (3) 今年度は関東大会や全国大会がどのように開催されるか、または中止になるか見通しが難しい状況であるが、部活動や学校行事の活性化を通して帰属意識を高め、愛校心を育てる。
- ・部活動加入者の増加及び各部の成績向上を目指し、より一層部活動を活性化させる。
 - ・関東大会など上位大会に出場する機会があれば壮行会を実施し、全校で応援する体制をつくとともに、成果を上げた部・生徒・顧問を積極的に称える。
 - ・強化・育成部活動への予算配分を重点化し、指導教員及び指導員を確保する。
 - ・保健体育、スポーツ健康学系科目および部活動を通して、体力の向上を図る。
 - ・すべての教育活動で、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。さらに、レガシーの活用について生徒に必要な知識を身につけさせたり、アイデアを考えさせたりする。
 - ・体罰、行き過ぎた指導、不適切な発言を起こさないように、年間3回以上の校内研修会を実施する。
 - ・生徒会主催の部活動紹介や文化祭、体育祭、合唱コンクール、ロードレース大会等の学校行事の計画立案、実施等を通して、自己肯定感や他人とかかわる力等の汎用能力を育成し、逞しく生きる力を培う。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い臨時休校の措置がとられ授業日数が減少する場合は、適宜、学校行事の内容について見直しや変更を行う。
- (4) 図書館の利用を促進し、読書活動を推進する。
- ・読書活動推進委員会を中心に組織的に取り組み、読書週間の活動を推進することで、読書に親しむ習慣を身につけさせる。
 - ・課題図書を読んだり校内書評合戦を開催したりしながら、生徒の読書への関心を高める。

2 広報活動・学校評価・保護者や地域との連携

(1) 広報活動の充実を図る。

- ・学校紹介などの広報活動を積極的に行う。また、教育活動の公開方法として月一回発行の学校便りを活用し、多くの都民に真の学校像を周知する。特にHPの充実を図る。
- ・中学生及び保護者を対象とした体験学習、学校説明会を実施するとともに、可能な範囲で中学校訪問を行う。
- ・塾を対象にした学校説明会を実施するとともに、可能な範囲で塾訪問を行う。
- ・計画的な授業公開週間を行うとともに、中学生や保護者を対象とした授業公開を随時実施する。

(2) 授業評価・学校評価の実施について工夫・改善を図る。

- ・生徒による授業評価を実施し、その結果を教科指導に活かす。
- ・公開授業や学校行事での来校者による授業評価及び学校行事評価を実施し、授業や行事の改善に活かす。
- ・学校運営連絡協議会による学校評価を実施し、改善に役立てる。

(3) 保護者・地域との連携・協力による学校支援体制の確立を図る。

- ・保護者及び地域と協力して生徒の学習環境をつくり、生徒の健全な育成を図る。
- ・地域の人材や施設を活用した教育活動を積極的に行い、特色ある教育課程の具現化を図る。
- ・教科「人間と社会」の取り組みの一環として、町会の協力を得て地域クリーン活動を実施し、地域社会に貢献するとともに奉仕の心を育成し、社会に貢献する人材を育成する。
- ・保・小・中学校を対象に特色ある授業（実習）や部活動体験を実施する。
- ・実習先の保育園やデイケアセンター利用者との交流を促進するとともに、受け入れ施設を拡大する。
- ・ボランティア活動を促進し、地域に貢献しながら学校と地域の協力関係を強化する。

3 学校における働き方改革推進プランによるライフ・ワーク・バランスの推進

- ・計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。
- ・在校超過勤務時間の上限を1か月あたり45時間以内とする。
- ・土曜日、日曜日については、原則としてどちらか一方は休養できるようにする。
- ・業務を効率的に行ない、週に一日以上定時退勤ができるようにする。
- ・夏季期間において休暇取得促進ウィークを指定し、年休や夏季休暇の取得を促す。
- ・学校閉庁日を年間5日設定し、教職員が一斉に休養できるようにする。
- ・教職員の心身の健康を維持・向上させるために、産業医による面談等を積極的に活用する。
- ・教職員の性別を問わず、育児や介護に携わることができるように、制度の周知や理解を図る。

4 重点項目と数値目標

(1) 進路実現に向けた取り組み

- ① 進路決定率 97%以上
- ② 難関大学等合格 早慶・SMART+CH 2名以上 公務員合格 3名以上
- ③ 年間皆勤者数 1学年 50人以上 2学年 60人以上 3学年 50人以上
- ④ 進路講演会 年5回以上
- ⑤ 資格取得者数 漢検 15人以上 英検 15人以上 IT関係 20人以上
保育技術検定関係 120人以上 食物調理技術検定 15人以上
- ⑥ 読書週間 年2回以上
- ⑦ 図書貸し出し年間平均冊数 1人平均1.5冊以上
- ⑧ 生徒の満足度 80%以上

(2) 部活動に関する取組

- ① 部活動加入率 85%以上
- ② 上位大会進出 前年度から部活動が計画的に行えていない状況を考慮し数値目標を設定しない
- ③ 壮行会の実施 前年度から部活動が計画的に行えていない状況を考慮し数値目標を設定しない

(3) 広報活動及び学校評価に関する取組

- ① 入試倍率 推薦 3.0倍以上 分割前期 1.2倍以上 分割後期 1.1倍以上
- ② 中学校訪問数 感染予防を考慮し数値目標を設定しない
- ③ 学校説明会等 12回以上
- ④ 体験入部実施回数 感染予防を考慮し数値目標を設定しない
- ⑤ 学校見学者数 感染予防を考慮し数値目標を設定しない
- ⑥ 授業公開 10日以上
- ⑦ 塾対象説明会 2回以上

(4) 保護者・地域との連携に関する取組

- ① 地域ボランティア活動への参加 感染予防を考慮し数値目標を設定しない
- ② 保・小・中・高の連携活動 感染予防を考慮し数値目標を設定しない
- ③ 保護者との連携活動 感染予防を考慮し数値目標を設定しない

(5) 生活指導を充実させ、生徒の健全育成を推進する取組

- ① 遅刻指導対象者数 各学期末において全学年合計で生徒数の1割以下